

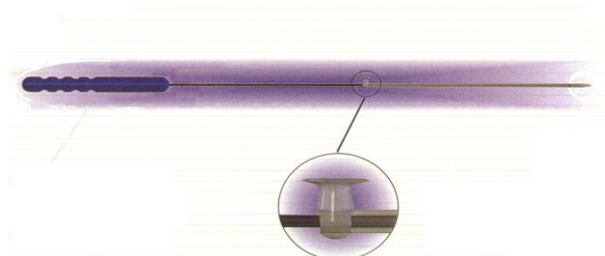
機械器具（51）医療用嘴管及び体液誘導管
管理医療機器 涙液・涙道シリコンチューブ（70337102）
DCR 涙道チューブ

【禁忌・禁止】

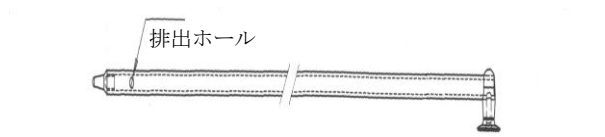
- 再使用禁止
- 再滅菌禁止
- 包装が破損、汚損している場合や製品に破損などの以上が認められる場合は使用しないこと
- 全ての操作は清潔な環境下で行い、接続部には直接手をふれないこと

【形状、構造等】

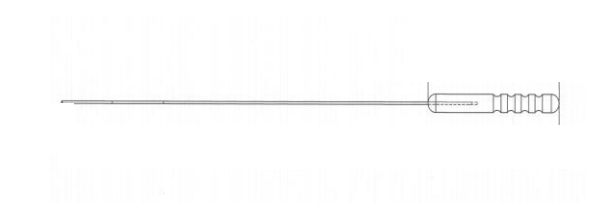
各部の名称



① DCR シリコンチューブ



② スタイレット



【性能、使用目的、効能又は効果】

使用目的

本品は、涙点閉塞、涙小管閉塞又は鼻涙管閉塞に起因する流涙症の治療を目的に、涙小管に挿入・留置し、涙道を拡張するチューブである。

【操作方法又は使用方法等】

治療の準備

治療のための器具の準備を行う。

- ① チューブを把持するための適切な鉗子あるいはピンセットを用意し、未滅菌の器具は使用前に滅菌する。
- ② 本品を滅菌包装から取りだしておきすぐに挿入できるように準備しておく。

治療のための患者の準備を行う。

- ① 涙小管部分に麻酔剤を注射する場合は、注入経路と涙小管の間隔を 5mm に維持する。
- ③ 涙点を、適切な直径の拡張子などで拡張しておく。

挿入手順

＜下涙道への留置＞

- ① 下涙点を拡張し次第、スタイレットのハンドル部を把持して、DCR チューブの先端部を下涙点の開口に挿入し、チューブをゆっくりと涙小管、涙囊、鼻涙管に挿入する。チューブの先端部が鼻涙管に進出したところで、涙点プラグをピンセットで押さえながらスタイレットをゆっくりと抜去する。
- ② スタイレットが抜去されてから、スタイレットの先端部あるいはピンセットで、涙点プラグを涙点に押し込み、涙点プラグのドームが涙点開口に密着してから DCR チューブを留置する。

＜上涙道への留置＞

上涙点・涙道の閉塞が認められる場合、下涙道への留置方法

- ①、②に従って、上涙道に同様に行う。

＜留置期間中の注意＞

- ① 手術後 1～3 日は毎日涙道洗浄すること
- ② チューブを引っ張ったり、抜いたりしないように患者を指導すること。
- ③ 留置期間は 30 日以内で抜去すること

DCR チューブを抜去する時には、涙点プラグのドームの縁を
摘んで取り出さないこと。

ピンセットでドームの縁を少し持ち上げて、涙点プラグの出来る限り下部をピンセットで摘んでDCR チューブをゆっくりと抜去する。

【製造販売業者及び製造業者等の氏名又は名称及び住所等】

製造販売業者：株式会社 ホワイトメディカル
住 所：東京都荒川区東日暮里5丁目48番
2号第一ビル

電話 番 号 : 03-3802-0655

*業者：カティーナ社 (Katena)

製造国：アメリカ合衆国

注意

【使用上の注意】

- ① 本品は手技に精通した医師が、使用すること。
 - ② 包装が破損、汚損している場合や製品に破損などの異常が認められる場合は使用しないこと。
 - ③ 全ての操作は清潔な環境下で行い、接続部には直接手を触れないこと。
 - ④ 包装を開封したら直ちに使用し、また使用後は感染防止に留意して安全な方法で処分すること。
 - ⑤ 適切なサイズ及び形状を選択すること。
 - ⑥ チューブ及びブジーを体内に挿入する場合は、ブジーによるチューブ及び身体への穿孔や傷等が生じないよう慎重に操作すること。
 - ⑦ 先端形状や全長等の変形は行わないこと。
 - ⑧ 手技に際しては、一般的に以下のような合併症が発生するおそれがある。合併症が発生した場合は術者の所見に基づき、適切な回復処置を行うこと。回復処置の具体的な内容については術者において事前に確認すること。
- ・ 涙点の浮腫や炎症
 - ・ 肉芽腫
 - ・ チーズワイヤリング

【貯蔵・保管方法及び使用期間等】

貯蔵・保管方法

- ① 水濡れに注意し、高温、多湿、直接日光の当たる場所を避けて、本品が折れ曲がらないように注意して保管すること。
- ② 化学薬品の保管場所やガスの発生する場所に保管しないこと。

滅菌方法 ガンマ線滅菌

使用期間 滅菌日より5年以内

【包装】

1本/箱